

保育者養成校におけるオペレッタ創作による 社会人基礎力獲得の学生の主観的評価について

佐々木友里・葛谷 潔昭

For subjective evaluation of the student towards acquisition of society basic ability
through operetta at designated nursery teacher (HOIKUSYA) training facility.

Yuri Sasaki, Kiyoaki Kuzuya

豊岡短期大学 論集

第 15 号 別 冊

平成 31 年 3 月 31 日 発 行

保育者養成校におけるオペレッタ創作による 社会人基礎力獲得の学生の主観的評価について

For subjective evaluation of the student towards
acquisition of society basic ability through operetta at
designated nursery teacher(HOIKUSYA) training facility.

佐々木 友里 葛谷 潔昭

Yuri Sasaki, Kiyooki Kuzuya

はじめに（研究の目的）

この研究は、一昨年度から継続している、保育者養成におけるオペレッタ創作による社会人基礎力の獲得に関する研究であり、昨年度の「保育士養成校におけるオペレッタ創作による、社会人基礎力獲得の可能性について」の続編として、社会人基礎力の獲得に対して、創作に取り組む学生がどのような評価をしたのか、生の声を分析、考察することを目的とする。

なお、「社会人基礎力」とは、経済産業省「社会人基礎力に関する研究会」で示されたものあり、「人間性、基本的な生活習慣をベースにした基礎学力と専門知識を使いこなすことができる力」と理解でき、図1の通り「3つの力」と「12の能力要素」で構成されている。多くの高等教育機関において、企業人、組織人として、また生産性向上のために、対人関係、業務遂行能力の獲得のための指標として用いられている。

さて、先回の研究では、オペレッタ創作を通して学生は、社会人基礎力を養うことにつながっていると高い比率で実感しているということが明らかになった。しかし、その調査研究では、社会人基礎力の項目（能力要素）の獲得度について数値によるランク付けで自己評価したものを分析するものであり、具体性が欠けていた。今回は、それと同時に行ったアンケートで収集した学生のコメントを活用し、より具体的に分析し、今後のオペレッタ創作と保育者養成のあり方を模索することにつなげていくこととする。

研究方法

「卒業記念音楽発表会」として行っている、オペレッタ創作の発表後に、学生自身が取組を通して

獲得できた、もしくは獲得の必要性を感じた社会人基礎力の内容に関するアンケートを実施した。

その調査は、社会人基礎力の能力要素の獲得度合（数字によるレベル）の回答を求める質問と、オペレッタ創作における社会人基礎力の獲得について自己評価のコメントを求めたものである。先回の研究では、獲得度合の質問の結果に特化して分析したため、後半の具体的なコメントを分析しなかった。そこで、今回は、そのコメントからキーセンテンスを抽出し、「獲得できた」といったポジティブなコメントと、「獲得できなかった」などのネガティブなコメントに分け、回答数を集計することによって、社会人基礎力の獲得状況とオペレッタ創作の効果と課題について明確化することとした。

調査概要

調査期間 2014 年度～2016 年度（2014～15 年度は、前年度、前々年度の発表の研究と同時進行している）オペレッタ創作（卒業記念音楽発表会）の発表後 1 週間程度（各年度 1 月下旬もしくは 2 月上旬）

調査方法 配布・回収法

対象者数 144 名（筆者が勤務する養成校の「音楽総合・卒業研究（オペレッタ）」の受講者）

回収率 100%

調査項目 社会基礎力の「12 の能力要素（主体性、働きかけ力、実行力、課題発見力、計画力、創造力、発信力、傾聴力、柔軟性、状況把握力、規律性、ストレスコントロール力）」の項目ごとに、オペレッタ創作活動で「社会人基礎力」の獲得につながったか、つながらなかったか、重要性を感じたか、感じなかったかなどの主観的評価について、具体的かつ簡潔に 30 文字以内でコメントする。

分析と考察 上記の調査結果（コメント）を 1 文ずつカード化し、そのカードを集計し、分析した。その上で、獲得できた、もしくは重要性を感じ、獲得できるように努力できたといった内容を「ポジティブ」に分類し、獲得できなかった、もしくは、重要性を感じたが努力できなかった、重要性を感じなかった、を「ネガティブ」に分類した。

結論を出すにあたっては、昨年度の研究結果も参考にしつつ、今回の集計結果をもとに、担当教員との意見交換も含め考察を試みた。

調査結果と解釈

集計結果は表 1 に示した通りであるが、能力要素別の主な結果とその解釈は下記の通りである。

前に踏み出す力（アクション）

(1)主体性 これは、指示を待つのではなく、自らやるべきことを見つけて積極的に取り組む力とされている。主体的に動けたとする「ポジティブ」な回答が、25.7%、一方で、主体的に動けなかったとする「ネガティブ」な回答が 74.3%と、圧倒的にネガティブな回答が目立った。

(2)働きかけ力 この項目は他人に働きかけ巻き込む力とされている。先述の 2 項目と異なり、ポジティブな回答が 54.2%と優位な数字となった。ポジティブの主な内容としては、自ら動く、働きかけるといふより、他のメンバーとともに活動しようとするための、声掛け、協力の表明、後方支援であり、主体性が低い傾向と論理的には矛盾しない。

なお、ネガティブな回答は 45.8%で僅少な差であった。多くの回答者は、重要性に気が付きながらも行動できていないというニュアンスであった。なお、最多数は「働きかけをしなかった」「声掛けができなかった」であり、ネガティブな回答の 9 割以上を占め「働きかけをする」メンバーと、「働きかけない・できない」メンバーとに「二極化」していたことが分かった。

(3)実行力 この項目は、自ら目標を設定し、失敗を恐れず行動に移し、粘り強く取り組む力とされている。主体性で回答した「ポジティブ」「ネガティブ」の傾向ほぼそのまま、主体性の質問の感覚を引き継いで回答しているものが多かった。簡潔に言えば「主体性がある(ない)」＝「実行力がある(ない)」という連動性があった。

自ら実行した、自ら手伝ったなどの「ポジティブ」の回答は 29.9%、自ら行動できなかった、自分の仕事だけはした、自分の仕事も遅かった、みんなと協力し合えなかった、言われてから行動したなどの「ネガティブ」な回答は、70.1%であった。

ただし、ポジティブな回答の中に「自ら手伝った」「やる気があればできた」といった、手伝えることに傾注した学生や、その時々で気持ちで実行力に波があったとする学生もあり、集計の際に判断に迷った。しかし、その学生は「実行の事実がある」つまり「実行力を発揮した」とみなすことができるため、ポジティブ側として集計した。そのため、主体性の集計結果よりもポジティブ側が多くなった。

考え抜く力（シンキング）

(1)課題発見力 この項目は、自ら考え、感じて、目的や課題を明らかにする力のことであり、さらに課題を発見して解決に向かっていけるどうかの力とされている。その中で、課題の発見が積極的にできたとする「ポジティブ」な回答が半数以上あった。また、その中で他者との関係をもって解決にあたろうとする者も約 8%いた。また、「ネガティブ」に分類したもののうち、一番多数なのは「課題を発見している者」で、約 26%いた。内訳は、少なくとも自己課題を発見しているものが多数で、課題を発見しているが人に伝えることができていなかった者も若干名いた。なお、ネガティブの次に多数だったのは、課題を発見できなかった者であるが、約 20%いた。

(2)計画力 この項目は、課題に向けた解決プロセスを明らかにし、そのための最善と考えられるものを準備する力だとされている。圧倒的多数が、計画の重要性を認識しているが、全体の 80%余りが「計画通り進められなかった」などの「ネガティブ」な内容であった。計画通り進めることができた等の「ポジティブ」な回答の中で、ほとんどが当初から計画を意識していた者だが、後から、計画性の重要性に気が付いて計画的な活動に変えた者もいた。また、「ネガティブ」な回答の中に、自分の

分担だけは計画的だった者、開催までの限られたスケジュールの中で、何とか計画的に行おうとする姿勢は持っていることが分かった。

(3)創造力 これは、新しい価値を生み出す力、新しいものを想像し創造する力とされており、全体の40.3%が何らかの「創造や創意工夫」を実行したと認識していた。ネガティブな回答の中の7%余りが何らかの発想をしていたが実行に移せなかった、また8%余りが自分の創造力が他人に受け入れられなかったという者がいたが、新しいことを想像したり創造したりしている学生の多くは、その実現や課題解決に向けた行動を行っていることが分かった。ただ、残りの者が、そもそも創造やアイデアを考えることができず、受け身であったことも事実であり、「創造する者」と「創造しない・できない」者の「二極化」が起きていたことがわかった。また、先述の、創造をしたが受け入れられなかったという意見もあったように、創造する側にも、意見の取り扱い方や人間関係に何らかの課題があった可能性がある。

チームで働く力（チームワーク）

(1)発信力 これは、自分の意見をわかりやすく伝える力とされている。自ら発信できたとされる「ポジティブ」な回答が27%余りいた。さらに、「ネガティブ」な回答をした学生のうち、多少は発言・発信できた、うまく伝えられなかった、もっと発信すればよかったという「発信できたが、少しだけだった」「声は出せたがうまくいかなかった」という学生を含めると、40%弱の学生が何らかの発信を行ったと認識していた。しかし、ポジティブに答えた学生の多くが「手伝って欲しいことが発信できた」と認識している者で、全体の16%であった。これは、発信「できた」者の半数以上を占め、比較的リーダーシップをとれている層に偏りがちであったとも言える。残りは「誰かの指示を伝える」「指示すら伝えられなかった」「リーダーに頼ってしまった」といった受け身な回答が目立った。また、クラス担任や指導担当教員の指示を意識している回答もあり、創作活動の一部を教員主導で行わざるを得ない部分の存在も垣間見られた。

(2)傾聴力 これは、相手の意見を丁寧に聴く力、そして、相手の話しやすい環境をつくり、適切なタイミングで質問するなど相手の意見を引き出す力とされている。傾聴できたとする「ポジティブ」な回答は、すべての項目の中で一番多く、全体の75%と顕著であった。その中でも、担任、指導者、クラスメイトの区別なく「人の話を聞いた」という回答がほとんどで、多くのメンバーが、相手の話を聞こうとする姿勢を持って臨んだと言える。なお、悩み事を聞いた、話し合いをしたという回答もあり、問題解決をしようと取り組んだ学生が10%弱はいた。

一方「ネガティブ」な回答は「人の話が聞けなかった」とするものが一番多く、その理由の多くは自分の仕事で精一杯であったためで、全体の15%ぐらいを占めていた。

(3)柔軟性 これは、相手との意見の違いや立場の違いを尊重し理解する力とされているが、先の「傾聴力」について「ポジティブ」な回答が多かった項目である。傾聴力の項目にあるように、まず

は人の話を聞き、その後の行動は、人の意見を尊重して、もしくは意見に従って柔軟に対応を行った、行おうとしていたことが分かった。

しかし、傾聴力の項目で「人の話を聞いた」とする者が 70% 余りいたのに対して、柔軟性の項目にある「他人を尊重できた」とする者が、比較して 10% 少なかったということから、人の話は聞けるが、その後の柔軟性のある行動までつながらなかった者も少なからずいたことが分かる。

(4) 状況把握力 これは、自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力、チームで仕事をするとき、自分がどのような役割を果たすかを理解する力とされている。状況や状況を把握していたとする「ポジティブ」な回答は、全体の 45% で、そのうち、自身の役割も意識できていた者は、15% 余りいた。一方で、状況や状況を把握できていなかった、把握していたが気にしなかった、手遅れだったとする「ネガティブ」な回答を行ったのは、約 55% あり、「ポジティブ」な回答を上回った。なお、自分のことで精一杯で状況が把握できなかったとする者が 10% 余りあり、単純に状況をあまり把握できていなかった者と合わせて、全体の 40% 以上を占めた。

(5) 規律性 これは、社会のルールや人との約束を守る力、状況に応じて、自らの発言や行動を適切に律する力とされている。何らかの規律を守ることができたとする「ポジティブ」な回答をした者は全体の 50% 余りいた。その中で、決められたこと、決め事は守るということを意識して回答した者が、16% 余りあり、受け身の姿勢をもつ学生もいることを伺い知ることもできた。また「ネガティブ」な回答については、46% 余りという僅差で「ポジティブ」な回答を下回った。そのうち半数以上は、あまり規律を守れなかったという回答で、他に、努力したが守れなかったという回答であった。つまり、重要性を感じているが「実行できなかった・叶わなかった」と捉えられる回答が 28% 余りと目立った。

(6) ストレスコントロール力 これは、ストレス発生源に対応する力、ストレスを感じることもあっても、成長の機会だとポジティブに捉えて肩の力を抜いて対応する力とされている。

ストレスコントロールができたとする「ポジティブ」な回答を行った者は、半数を超えていた。多くはコントロールの内容を記載していなかったが、プラス思考、オンオフの切り替えが多数を占めた。また、残りは、ストレスを活動中は抱えたままで、表情に出さないように我慢した者、運動・音楽など他の活動で発散する者がいた。一方で、ストレスコントロールができなかったとする「ネガティブ」な回答をした者も 46% 余りあり、半数弱がストレスを抱え続けていた可能性がある。また、感情表現のコントロールなど、相手の気持ちを考えた行動ができていなかったと評価する者もいた。

考察と結論

前回発表した研究は、同じ対象者に対して行った「社会人基礎力」の「獲得度合」を数値で問う調査であったが、今回、その結果とこの研究で集計した各項目の自己評価コメントとの比較を行いつつ

考察を行った。先回の結果について、マイナス評価の比率が多い順に示すと、計画力(71.5%)、発信力(66.7%)、実行力(56.6%)、主体性(53.5%)となっていたが、今回の場合、表2で示した通り、「ネガティブ」な評価について、計画力は84.0%、発信力は72.2%、実行力は70.1%、主体性は74.3%と獲得度をプラス評価した学生が必ずしもコメントでは「ポジティブ」に回答していないということが分かった。特に、主体性は、ネガティブなコメントの数が獲得度のマイナス評価の比率を上回っており、多くの学生の本当の感覚や自己評価は、オペレッタ創作に対して、受け身であった可能性がある。また、同様に先回の結果と今回の「ポジティブ」なコメントの集計の比較を行ったところ、先回の獲得度合のプラス評価の比率が多い順で示すと、傾聴力(72.2%)、ストレスコントロール力(60.4%)、柔軟性(59.7%)、規律性(57.6%)、課題発見力(57.6%)、働きかけ力(55.6%)、状況把握力(54.9%)と続いている。一方今回のコメントの集計(表2)では「ポジティブ」なコメントの高い順で、傾聴力は75.0%、ストレスコントロール力は53.5%、柔軟性は61.1%、規律性は53.5%、課題発見力は54.9%、働きかけ力は54.2%で、ストレスコントロール力が、コメントの方では、約7%低まっており、先回の獲得度合ではプラスの方にランクインしていた状況把握力は、想像力よりも少ない45.1%で、ポジティブのほうが下回っているという矛盾した結果となった。これは、状況把握力が身に着いたというよりかは、その重要性に気が付いて、今後は気を付けようと感じていることが数字に反映したのだと考えることができるだろう。

今回の結果を、各項目別で考察すると、「前に踏み出す力(アクション)」については、創作活動のやる気はあり、主体的に動くことの重要性に気が付いてはいるが、何事にも実際の動きにつながりにくく、主体的な役割を果たそうという気持ちが少なかった。誰かが立てた目標を達成させることに重要性を感じて、「メンバーのためになることの大切さ」は感じているが、結果的に、働きかける面でも、補助的な役割を果たそうとしてしまった。ただし「主体的にできなかった」など、それらの状況に対する問題意識と反省はあるので、社会人になってから何らかの努力の重要性には気がついたと思われる。

「考え抜く力(シンキング)」については、計画を立て、先を読みながら行動することの重要性に気が付いているが、自ら計画を立てようとしない。また、目標達成を妨げる課題の発見はしているつもりだが、自ら解決する術がわからない、失敗を恐れ実行できなかったと思われる。

「チームで働く力(チームワーク)」については、学生はチームの一員としての自覚は持っており、思いやりがあり、意見の発信と傾聴の両面の重要性には気が付いており、学生同士の言葉や指導担当者やクラス担任などの教員の言葉に傾聴すること、相手の気持ちを重んじ、相手の意見を取り入れていこうとする姿勢も見られたが、全体として双方向のコミュニケーションがとれず、目標達成まで取り組むところまではできていなかったと思われる。これは、主体性の低さや計画性の低さとも関連している。

この調査結果をもとに、オペレッタ創作にかかわる教員(指導担当教員とクラス担任)と意見交換

を行なった。自ら行動、発言して、渦中の人になりたくない、嫌われたくない、受け身だが良好な人間関係を維持したいという気持ちも働いているように感じる。その中で学生に呼びかけて、行動を促しても、上演の日が差し迫ってしまうので、結局は教員が、ストーリー、舞台セット制作を含め、強引に進めるしかなくなり、学生の目標達成の実感が下がった。さらに、学生のフォローを教員が行い過ぎて学生がそれに頼り切ってしまい、結果「教員の作品」となり、学生は出来栄や進め方に不満を持った可能性もある。

以上、項目全体から、オペレッタ創作を通して、学生は、社会人基礎力の獲得の重要性を感じた一方で、それに見合った行動が出来なかった者が多かった。学生は、課題を発見して、解決しなければならないと感じているにも関わらず、人生経験が少なく、このままではいけないと思いつつも、結果的に時間的な限界を迎え、教員が実行してしまい、逆効果になってしまった可能性がある。

今後は、多数を占め、全員が共有出来る「相手を尊重し思いやる気持ち」をベースに、学生が自ら議論して、目的を理解し、目標を立て、役割分担し、主体的に行動し、目標達成することの醍醐味を「失敗を含めた経験」から学んでいくことが望まれる。これは、人間関係作りや心身の健康管理の醸成にもつながり、保育の基本的な枠組みの「五領域」と呼ばれる健康、環境、人間関係、表現、言葉の保育実践ができるようになることでもあると考えられる。教員側としては、社会人基礎力の獲得と五領域の再認識と実践力を高めるためのオペレッタ創作であることを再認識し、作品ごとのケーススタディをし、分析し、各個人の改善思考や改善行動、計画性の実行性を高める方法を考えることが重要だと言える。

今後の課題

今回集計、分析した調査は、対象者側の社会人基礎力の分類と能力要素の理解が統一されていない可能性があった。具体的には主体性、実行力、働きかけ力の内容が混ざっている、ストレスコントロール力と規律性と柔軟性の内容が混ざっていると思われる回答があった。

また、今回の調査は獲得度と重要性の認識を区別せずに行なったため、自己評価として獲得度合と重要性を混同してコメントしてしまった可能性がある。次回は、重要性を感じた度合いとその理由、獲得度合いと獲得した具体的内容を問うものになりたい。また演目ごとのケーススタディを行い、学生の動機付けの向上の具体策について、社会人基礎力の獲得と実行の効果を上げるための具体策についても研究を続けていきたい。

参考文献

- 経済産業省.(2006). 社会人基礎力に関する研究会－中間取りまとめ－(p.1-5).
 (http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/chukanhon.pdf) (2018年10月1日閲覧)
 経済産業省・河合塾.(2010).社会人基礎力 育成の手引き ―日本の将来を託す若者を育てるために、教育の実践現場から(p.5). (http://www.wakuwaku-catch.com/社会人基礎力/社会人基礎力育成の手

引き) (2018年10月1日閲覧)



図1 「社会人基礎力」<3つの力と12の能力要素>

出所 経済産業省『社会人基礎力に関する研究会』中間とりまとめ(概要版)2006年2月

表1 社会人基礎力別 主観的評価(コメント)集計表 (N=144)

※評価: ○=ポジティブなコメント、△=ネガティブなコメント

1. 前に踏み出す力(アクション)

能力要素	評価※	主観的評価(コメント)	回答数(人)	比率(%)	比率合計(%)
主体性	○	積極的に動けた	24	16.7	25.7
	○	最後までやり遂げた	9	6.3	
	○	聞きながら動いた	2	1.4	
	○	課題の期限の度に答えを出した	2	1.4	
	△	主体性がなかった	37	25.7	
	△	自分から進んでできなかった	30	20.8	74.3
	△	自分のことしか積極的にならなかった	14	9.7	
	△	動きが遅かった	11	7.6	
	△	自分が主になることはなかった	6	4.2	
	△	期限までに終われなかった	4	2.8	
	△	指示待ちしかできなかった	3	2.1	
	△	すぐに諦めた	1	0.7	
	△	もう少しできたはず	1	0.7	
	△	もう少しかできなかった	1	0.7	
実行力	○	自ら取り組めた	15	10.4	29.9
	○	自ら声をかけ手伝った	9	6.3	
	○	責任を持って役割をした	6	4.2	
	○	一つ一つ動いていった	5	3.5	
	○	やる気が出ればできた	3	2.1	
	○	自分の時間を削ってでも努力した	2	1.4	
	○	友人と練習した	1	0.7	
	○	自分をいっぱい表現した	1	0.7	70.1
	○	一歩踏み出した	1	0.7	
	△	自分の仕事だけはした	29	20.1	
	△	みんなと協力し合えなかった	18	12.5	
	△	途中からしか積極的にできなかった	10	6.9	
	△	自分の仕事(も)が遅かった	8	5.6	
	△	言われてから行動した	8	5.6	
	△	気持ちはあっても結果に出せなかった	6	4.2	
	△	行動に移せなかった	6	4.2	
	△	何をしたらいいかわからなかった	5	3.5	

働きかけ力	△	考えて行動しても判断ミスが多かった	5	3.5	54.2
	△	時間がかかりすぎ、手遅れになりがちだった	4	2.8	
	△	自分の判断だけでは決めかねることがあった	2	1.4	
	○	自ら動き、他の人に働きかけた	24	16.7	
	○	仲間と協力し合った	15	10.4	
	○	声かけ、働きかけることができた	11	7.6	
	○	意見をよく出した(自ら発信した)	10	6.9	
	○	他のメンバーとすぐに動けた	6	4.2	
	○	周りを見て動いた	4	2.8	
	○	みんなの雰囲気や良くなるように気をつけた	3	2.1	
	○	指示出しが出来た	3	2.1	45.8
	○	全体を把握するように努力した	2	1.4	
	△	働きかけはしなかった	40	27.8	
	△	周りに気が配れなかった、声かけが出来なかった	16	11.1	
	△	メンバーに伝わらないことがあった	4	2.8	
	△	途中からやる気がなくなっていた	4	2.8	
	△	指示出しはできなかった	2	1.4	

2. 考え抜く力(シンキング)

課題発見力	○	次にやるべき課題を見つけて進んでいた	39	27.1	54.9
	○	自ら課題を発見することができた	20	13.9	
	○	できない人の課題を手伝った、協力し合えた	9	6.3	
	○	色々な方向から良くなるよう考えた	5	3.5	
	○	一人で考えず話し合うことができた	2	1.4	
	○	試行錯誤、失敗して課題を見つけたことができた	2	1.4	
	○	人間関係のトラブル予測に気づいた	1	0.7	

傾聴力	○	オペレッタが終わった後自分の課題を発見できた	1	0.7	45.1
	△	自分の課題に気が付いたが手遅れで、周囲に目が向けられなかった	26	18.1	
	△	課題は自分では見つけられなかった	21	14.6	
	△	課題を発見しても積極的に動けなかった	10	6.9	
	△	全体の見通しを持ちながら取り組むことができなかった	4	2.8	
	△	課題を発見していても、人にうまく伝えられなかった	2	1.4	
	△	自分の意見にこだわりすぎて、課題が見つけれなかった	1	0.7	
	△	間違っていることに気がつかなかった	1	0.7	
計画力	○	計画を練り進めていった	14	9.7	16.0
	○	後半は計画性を持って行動できた	4	2.8	
	○	見通しを持って組み立てた	3	2.1	
	○	客観的に見て進めることができた	2	1.4	
	△	計画性がなく期限ギリギリであった	68	47.2	
	△	時間の管理ができなかった	15	10.4	
	△	自分の分担でないことは人任せ	10	6.9	
	△	自分のみの計画はできた	8	5.6	
	△	思うように進まなかった	6	4.2	
	△	思いつきで行動して計画性がなかった	6	4.2	
	△	全体の見通しを持ちながら取り組むことができなかった	4	2.8	
	△	先が読めず一日の計画しかできなかった	3	2.1	
	△	物事を後回しにしてしまいがちだった	1	0.7	
創造力	△	創意工夫ができなかった	28	19.4	47.9
	○	意見やアイデアを出した	21	14.6	
	○	新しいことを創造と想像しながら作った	20	13.9	
	○	さらに良くなるように創意工夫した	17	11.8	
	△	創造力は自分にはなかった	16	11.1	
	△	自分で考えることができなかった	13	9.0	
	△	自分の創造力が他人に受け入れられなかった	12	8.3	
	△	発想は生まれるが作れなかった	10	6.9	
	△	先生からヒントをもらうだけで創造できなかった	5	3.5	
	△	アイデアが浮かばないことがたくさんあった	2	1.4	
発信力	○	手伝って欲しいことや連絡を発信できた	23	16.0	27.8
	○	意見を自分から進んで出した	12	8.3	
	○	人の意見を伝達した	5	3.5	
	△	自分からは意見を言えなかった	50	34.7	
	△	伝えることができなかった	27	18.8	
	△	多少は発言・発信できた	9	6.3	
	△	リーダーに頼ってしまった	9	6.3	
	△	指導担当教員の指示を拡散するのを忘れた	5	3.5	
	△	うまく伝えられなかった	5	3.5	
	△	もっと発信すればよかった	4	2.8	
	△	正しいかどうか迷った	2	1.4	

3. チームで働く力(チームワーク)

傾聴力	△	後半まではできなかった	1	0.7	75.0
	△	先生に確認を取ることができなかった	1	0.7	
	○	人の話は聞くようにした	41	28.5	
	○	指導担当教員・担任、クラスメイトの意見に耳を傾けた	29	20.1	
	○	意見はよく聞いた	14	9.7	
	○	リーダーの指示をしっかりと聞くことができた	10	6.9	
	○	悩む事を聞いた	8	5.6	
	○	話し合いをして決めた	5	3.5	
	○	環境を作り話し易い場所を設けるようにした	1	0.7	
	△	自分の仕事ばかりで周りに傾聴できなかった	21	14.6	
	△	人の話を最後まで聞けなかった	7	4.9	
	△	あまり気にしなかった	2	1.4	
	△	余裕がなくなった時もあった	2	1.4	
	△	素直に話が聞けない	2	1.4	
	△	リーダーや人任せで話をあまり聞かなかった	1	0.7	
柔軟性	△	携帯を触って聞いてなかった	1	0.7	25.0
	○	相手の話を受け止めアドバイスを次に活かした	16	11.1	
	○	素直に受け入れることができた	16	11.1	
	○	すぐに対応するように心掛けた	15	10.4	
	○	相手の気持ちを組み合わせることができた	12	8.3	
	○	その場に応じた適切な判断が少しだけできた	8	5.6	
	○	みんなに言われたことをやった	8	5.6	
	○	色々な案を出した	6	4.2	
	○	失敗してもすぐに切り替えられた	3	2.1	
	○	問題に対し解決案を出すことができた	3	2.1	
	○	言動には注意した	1	0.7	
	△	柔軟性はなかった	19	13.2	
	△	自分の考えを曲げない通そうとした	11	7.6	
	△	変更されるとパニックになった	6	4.2	
	△	変わったことを受け入れることができなかった	4	2.8	
状況把握力	△	特に気にしなかった	4	2.8	38.9
	△	一つのことにとらわれていた	4	2.8	
	△	その場に合った判断はできなかった	4	2.8	
	△	自分のことになると慌てしまう	2	1.4	
	△	自分から伝えることができなかった	1	0.7	
	△	もっとできたと思う	1	0.7	
規律性	○	今自分が何をすべきか把握できた	34	23.6	45.1
	○	自分なりに状況の把握ができた	22	15.3	
	○	こまめにグループで連絡を取り状況を把握した	9	6.3	
	△	状況や役割をあまり把握できていなかった	45	31.3	
	△	自分のことで手一杯で難しかった	16	11.1	
	△	今何をやっているのかわからない時があった	6	4.2	
	△	他の係りの動きを把握できなかった	6	4.2	
	△	状況に気づくことが遅かった	3	2.1	
	△	面倒で状況把握しつつも無視していた	2	1.4	
	△	把握はできたが気にしていなかった	1	0.7	
	○	自分は規律をしっかりと守った	30	20.8	
	○	決められたことはできた	20	13.9	

	○	何事にも前向きに楽しみクラスに協力した	9	6.3		○	思いっきり演技をすることで発散した	2	1.4	
	○	後にできる自分のやること止め指示に従った	6	4.2		○	トラブルの度に話し合いお互い理解できるようにした	1	0.7	
	○	時間や決められた事は守れた	5	3.5		○	言われたことをすぐにやった	1	0.7	
	○	みんなの前ではきききび動くようにした	1	0.7		○	時折心の中を無にしていた	1	0.7	
	○	自分勝手な行動を慎んだ	4	2.8		○	失敗しても自分を励まし乗り越えた	1	0.7	
	○	友人に不愉快な思いをさせないように心掛けた	2	1.4		○	相手の気持ちになることを心掛けた	1	0.7	
	△	あまり規律を守ることができなかった	35	24.3		○	好きなものを買って発散した	1	0.7	
	△	休日に出て行かなかった	7	4.9		△	コントロールができなかった	25	17.4	
	△	規律を守ろうと努力はしたが、ほとんどできなかった	6	4.2		△	表情に出て雰囲気壊してしまっ	8	5.6	
	△	自分のできること以上のことはしなかった	5	3.5		△	どこで吐き出したらいいのかわからなかった	7	4.9	
	△	よく遅刻した	5	3.5		△	上手く発散できなくて身体に影響が出た	6	4.2	
	△	自分からは中心になって動けなかった	4	2.8		△	口調が荒くなってしまった	5	3.5	
	△	だらけてしまった	4	2.8		△	自分の感情に流され続けた	4	2.8	
	△	時期が決まっている連絡を伝えるのが遅くなった	1	0.7		△	怒りをうまく相手に伝えることができなかった	3	2.1	
ストレスコントロール力	○	自分なりにコントロールができた	28	19.4		△	なかなか楽しく作業を行うことができなかった	3	2.1	46.5
	○	何事にも前向きに楽しもうとした	11	7.6		△	ストレスから逃げ、創作活動を疎かにすることがあった	3	2.1	
	○	ストレスを全く感じず気持ちを保つことができた	11	7.6		△	相手の気持ちを考えられなかった	2	1.4	
	○	オンオフを意識し明確に切り替えをした	11	7.6		△	気分がギリギリになることが多かった	1	0.7	
	○	表情に出ないように言い聞かせた	5	3.5						
	○	運動、音楽を聴く、大声を出した	3	2.1						

表2 主観的評価(コメント)の項目別比率合計のランキング (N=144)(単位%)

ネガティブなコメント(多い順)

	能力要素	比率		能力要素	比率
1	計画力	84.0	7	ストレスコントロール力	46.5
2	主体性	74.3	8	規律性	46.5
3	発信力	72.2	9	働きかけ力	45.8
4	実行力	70.1	10	課題発見力	45.1
5	状況把握力	54.9	11	柔軟性	38.9
6	創造力	52.1	12	傾聴力	25.0

ポジティブなコメント(多い順)

	能力要素	比率		能力要素	比率
1	傾聴力	75.0	7	創造力	47.9
2	柔軟性	61.1	8	状況把握力	45.1
3	課題発見力	54.9	9	実行力	29.9
4	働きかけ力	54.2	10	発信力	27.8
5	規律性	53.5	11	主体性	25.7
6	ストレスコントロール力	53.5	12	計画力	16.0